

いもう 葦毛通信



平成 29 年 3 月 23 日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町 3 丁目 1
TEL : 0532-56-6060

No. 49

1、平成 28 年度作業報告 - 3

ショウジョウバカマ

植生回復作業も終盤になってきました。S地点の木の伐採は終了し、片づけと仕上げの作業を行っています。V地点（三の沢）はバックホーによる抜根作業が終わり、4カ月が過ぎようとしています。V地点の下流は、D・E地点で植生回復作業前にかろうじて湿地として残っていた部分です。本来は三の沢湿地として一体のものであったと考えられます。

D・E地点は、2013年1月に大規模植生回復作業を開始した最初の地点です。V地点を含め三の沢はこれまで森林化していたところの木を大量に伐ってきたところです。色々な実験をし、その結果を確認した上で、植生回復を効率的に行う方法を考えながら作業を進めてきました。三の沢は5年間の作業の流れが最もよく分かるところなので、今回まとめて中間報告します。

1) 平成 24 年度の作業

三の沢の上・中流部は**V地点**、下流部は**D・E地点**にあたります(地区は葦毛通信 No. 36 参照)。これらは本来、同じ水源からの水で涵養され、一体の湿地と考えるべきものです。

D・E地点は大規模植生回復作業を始めた平成 24 年度の植生回復作業でも最初に作業を行った地点です。つまり、経年変化を最も長期間にわたって観察できている地点になります。

作業前はほとんど森林化しており（右写真上）、遠くに山頂がわずかに見えるだけでした。写真左側の枯れ草のところにわずかな水の流れが見え、流れに沿ってシラタマホシクサがありました。

この時の作業では林縁部の木の伐採と一部の抜根、ネザサの根の除去を手作業で行いました。右写真下は作業後の状態で湿地南と東側の林縁部の木を伐って日照を確保しました。



D・E地点作業前（2012年11月2日）



D・E地点作業後1年目（2013年4月14日）

林縁部には伐った木を仮置きしました。また、完全に森林化している奥がV地点になります。

2) 平成 25 年度の作業

平成 25 年度は隣のC・G地点の木の伐採を行ったので、D・E地点は植生回復作業を行っていません（右写真上）。

画面奥の林縁部は明るくなったことにより、ミカワバイケイソウが多く発芽しました。



D・E地点作業後2年目（2014年5月1日）

3) 平成 26 年度の作業

平成 26 年度には林縁部だったE地点の抜根作業をバックホーで行い、D地点東側に隣接するL地点の一部でも、マット状のネザサの根をバックホーで除去しました（右写真中、葦毛通信 No. 19）。

E地点の経過については、葦毛通信 No. 42 に掲載していますが、これまでにヤチカワズスゲ、ノカンゾウ、イヌノハナヒゲ、シラタマホシクサ等多くの湿性植物が復活し、3年目に地表面の礫が分からない程目立って植物の量が増えました。今年の秋には作業後4年たって、水の流れ沿いにシラタマホシクサが大きな群落になりました。



D・E地点作業後3年目（2015年5月15日）
バックホーによる抜根作業後1年目
V地点（奥の森）伐採作業前

4) 平成 27 年度の作業

V地点（三の沢）は作業前には完全に森林化しており、奥が全く見通せない状態でした（右写真中）。平成 27 年度に木の伐採と除草を行い、湧水地点の崖がある国有林まで見通せるようになりました（右写真下）。木の伐採に際しては、葦毛湿原内では自生数



D・E地点作業後4年目（2016年4月23日）
V地点（奥の森の間）伐採作業後

が少ないメギやシラキ等を選択的に残し、イヌツゲやコナラ等の木を大規模に伐りました。木を伐った面積は約1,100 m²、本数は約800本でした。具体的な作業の経過は葦毛通信 No. 34 に、経過報告は葦毛通信 No. 35・43 に掲載しています。

5) 平成28年度の作業

伐採後の切り株からは多くのヒコバエが出て、様々な植物が発芽し、木の根やネザサの根の層が地表面を覆っていたところ（右写真上・中）ではアカメガシワやカラスザンショウ等の陽光性の木も多く発芽しましたが、春先の発芽の早い段階で除去しています。メリケンカルカヤやダンドボロギク等の外来種も定期的に除去しました。抜根しないと数年で元の森に戻ってしまうので、11月にバックホーで抜根を行いました。

これまでの実験と観察から木の根についての土やネザサの根に取り込まれた土の中には、埋土種子が多くあることが分かりましたので、バックホーで根を潰して土を振り落とすことにより、埋土種子の大規模な播き出しを行いました。

2～3年後には、三の沢のうち水分の多い画面左側にはシラタマホシクサ、ミズギボウシ、ミカワバイケイソウ等の湿性植物が復活すると予想しています。右側のやや乾燥した部分にも陽光性の植物が発芽してくると思います。

特にヒメヒカゲの食草であるイヌノハナヒゲが復活すれば、ヒメヒカゲも生息域を三の沢に広げ、個体数も増加すると予想しています。



D・E地点作業後4年目（2016年10月13日）
V地点（奥の森の間）抜根前



V地点抜根前（拡大）（2016年10月13日）



D・E地点作業後4年目（2016年12月26日）
V地点（奥の森の間）バックホーによる抜根後

2、2017年春の訪れ

今年は例年より気温が低い日が多く、春の訪れが遅くなっています。また、2・3月はほとんど雨も降らず葦毛湿原の水の流れも細くなり、湿原は乾燥しています。

例年は2月末から3月初めにA地点の池で産卵するアズマヒキガエルが今年はまだ産卵できずにいます。例年2月末のまとまった雨の後に一斉に産卵し、産卵の様子は「蛙合戦」と称されています。このまま産卵が無いとは思えません、どうなるか心配なところです。

湿性植物の発芽や開花も遅れています。去年は暖冬で、2月2日にハルリンドウの開花を確認しましたが、今年は3月19日でした。ショウジョウバカマやタチツボスミレもようやく咲き始め、ミカワバイケイソウも芽を伸ばしてきました。

3月下旬になり、やっと湿原のあちこちで、ショウジョウバカマやハルリンドウが開花し始め、春らしくなってきました。今年はバックホーで大規模に抜根した三の沢湿地がどこまで復活するのか、その変化を楽しんでいます。



アズマヒキガエルが産卵するA地点の池（3月22日）



ショウジョウバカマの蕾と花
（2017年3月7日・14日）



タチツボスミレ（2017年3月14日）



ハルリンドウ（2017年3月22日）